



防衛医大病院広報誌 第9号 発行日令和4年10月7日
企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター
発行責任者 塩谷 彰浩
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
T E L 04-2995-1511

まもる 防衛医大【護】通信

地域医療連携検討会を開催いたしました



6月7日テーマは『今改めて考える栄養管理①』で開催致しました。

「高齢者の栄養」

防衛医大病院 消化器内科 東山 正明先生

当院では、CONUT 法栄養評価で入院時の栄養スクリーニングを行い、コンサルト数は増加。栄養投与ルートとして、経口摂取が困難な場合、経腸栄養・輸液となりメリット・デメリットがある。食事の中断は嚥下機能低下リスクの増加や腸管を利用しない事で感染リスクが上がる。栄養管理面では、胃瘻・腸瘻は長所も多い。誤嚥リスクとして口腔ケアも怠れず、医科歯科の連携推進は今後の課題である。

「切れ目のない栄養管理を目指して」多摩北部医療センター 管理栄養士 大島 真理子先生

食事は生活の土台である。入院前から退院後まで切れ目なく食事や栄養に関して支援体制づくりを行っている。入院前の患者支援センターで聞き取りを行い病棟へ繋ぎ、入院後3日以内に多職種カンファレンスを行う。退院前カンファレンスなどで食事のエピソードなどチームで取り組んでいる。栄養情報提供書の様式（HPでDL可）を紹介され、20~30件/月発行。地域医療機関との連携や栄養指導も行っている。地域の多職種連携で勉強・交流会「お隣会」も主催。独居や高齢者でも手軽にできるレシピを動画配信中。管理栄養士として切れ目なく栄養管理ができるよう取り組んでいる。

「リハビリテーションは栄養>運動」 防衛医大病院 リハビリテーション部 田村史沙先生

動くためには、【食べる】を先に再建する必要がある。日本リハビリテーション栄養学会ガイドライン2020を参考に、どのようにしたら栄養を増やすことができるのか、病態を踏まえ実際に増やせたエネルギーに合わせて運動していく。誤嚥性肺炎の場合、栄養改善したほうが食事・訓練中の集中力も改善。嚥下体操もエネルギー消費になる。疲れては食事が摂れずリハビリも進まない。

全体討論では、栄養評価について話し合わせ、栄養スクリーニングはデータから評価できBMIも含め出来る事は利点だが、社会的背景が反映されない。入院患者全員に取れていないところもある。評価は在宅でも使用しているMNA-SFなど使用しやすいものもある。等の意見がでました。

アンケートでは以下の質問がありました。

Q: 腸瘻はトライツの先まで入れてコントロールするのか?

A: トライツ靱帯の20cmくらいで刺してカテ先は30~40cm先になる。

Q: 持続(24H)で入れる場合、時間何mlが良いか?

A: 患者の栄養状態や経口摂取量によって異なるが、下痢しない量で調整、60ml/h前後くらい。

皆様にご協力頂き、ありがとうございました。次回は11月22日(火)に開催させて頂く予定です。

教授就任挨拶 & 診療科紹介 ①

泌尿器科教授

伊藤敬一

2018年4月から防衛医科大学校泌尿器科学講座の教授（防衛医科大学校病院泌尿器科部長）を拝命している伊藤敬一と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。皆様にご挨拶させて頂くとともに当院の泌尿器科について紹介させていただきます。現在、泌尿器科スタッフ7名、大学院生5名、専門研修医4名で病院の診療を行っております。近年の泌尿器科の医療は目覚ましい進歩を遂げています。大きな進歩の一つは腹腔鏡手術、ロボット支援下手術などの低侵襲手術の発展です。これらの低侵襲治療により患者さんの術後の回復は目に見えて早くなりました。また泌尿器科癌に対する薬物治療の進歩は著しく、治療選択肢が大きく広がり、手術や放射線治療なども組み合わせながら、粘り強く治療ができるようになってきました。当院泌尿器科の特色は、①様々な疾患の腹腔鏡手術、②泌尿器科癌の集学的治療、③泌尿器科癌の新規薬物治療、④尿道狭窄症治療、⑤腎不全治療、⑥骨盤臓器脱治療、⑦副腎腫瘍手術、⑧小径腎癌の焼灼治療、⑨後腹膜肉腫の治療などです。ロボット支援下手術はまだ導入されていませんが、現時点でのできる限りの低侵襲治療を追求しています。低侵襲手術だけでなく、巨大腎癌や巨大後腹膜肉腫などの高難度手術も積極的に行っています。また尿道狭窄症治療では日本随一の拠点病院となっています。もちろん、尿路感染症、尿路結石症、排尿障害、頻尿症、尿失禁、泌尿器科救急治療（尿路外傷、精巣捻転、尿閉、高度血尿など）、男性学など、できる限り幅広い泌尿器科疾患に対応できるように心がけています。

我々は埼玉県西部地区の中核病院の泌尿器科として地域医療に貢献できるよう日々診療しております。泌尿器科には、癌が進行している方、重症な尿路感染症や尿路出血で救急対応が必要な方など、難しいご病状の患者さんが日々受診されます。泌尿器科では常にチームで診療を行い、若手・中堅からベテラン医師が皆で最良の治療を考え、他診療科の助けもお借りしながら総合力で最善の治療ができるよう、そしてご病状を少しでも改善できるよう、日々努力しております。そして患者さんに親切に誠実に対応し、「防衛医大にきて良かった」と思ってもらえる診療科であり続けることが目標です。

現在、コロナ禍という様々な制約がある状況での診療となっており、地域の皆様にはご不便をかける面も多々あるかと存じます。幅広い泌尿器科疾患に対応する診療科であるように、低侵襲治療を含めより良い治療を提供できるように、そして大学病院としての高度の集学的治療ができるように、今後も努力していく所存です。また、最良の医療は、受診される患者さん、地域の医療機関の方々のご協力なくしては達成できないものと思われまます。地域の皆様と協力しながらより良い医療を行っていければと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



教授就任挨拶 & 診療科紹介 ②

耳鼻咽喉科

荒木幸仁

近隣の先生方にはいつも大変お世話になっております。2022年4月に塩谷彰浩病院長の後任として耳鼻咽喉科学講座4代目教授に就任いたしました。

耳鼻咽喉科は、頭頸部と呼ばれる眼と歯を除いた鎖骨から頭蓋底までの広い領域を扱い、昨年からは基幹学会名も「耳鼻咽喉科頭頸部外科学会」に変更となりました。呼吸や嚥下、発声など日常生活に必要な機能、聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの五感すべてに関連する臓器が含まれ、感染症やアレルギーから機能障害、悪性腫瘍といった、この領域のあらゆる疾患の診断から外科的・内科的治療の全てを担当しています。このため治療成績はもちろんのこと、如何に低侵襲に機能を温存・再生するか、が非常に重要な課題です。

当科ではこの機能温存・再生を特に専門としています。中でも頭頸部がん治療において、発声・嚥下を司る喉頭の温存は最重要課題です。塩谷病院長を中心に咽喉頭癌に対する内視鏡下経口的低侵襲手術（Transoral Videolaryngoscopic Surgery）を当科で独自に開発し、現在では「頭頸部がん診療ガイドライン」において早期咽喉頭癌の治療選択肢の一つとして推奨されています。転移なども含め、総合的な機能温存を目指した新規治療法を積極的に取り入れ、多くの患者さんを各地からご紹介頂いております。

また耳科領域における内視鏡下耳科手術、唾石症に対する唾液腺管内視鏡などの新規手術を全国に先駆けて導入し、国内有数の症例数を誇っています。声帯ポリープなど音声障害に対する音声外科手術も専門としていますので、「みみ、はな、のど、くび」で何かお困りの患者さんは是非ご紹介ください。当科の常勤医師は教官4名、研究科学生4名、専門研修医7名と比較的小さな医局ですが、意欲ある医局員が一丸となり、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域全ての疾患に対応しています。現時点ではコロナ対応による診療制限もありご迷惑をおかけしておりますが、中核病院としての地域医療への更なる貢献、安心してご紹介いただくための機能強化を目指してまいります。今後ともよろしくごお願い申し上げます。



病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成します。

基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を提供する
- 4 地域の中核として救急医療を実践する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 使命感をもち、優れた臨床能力を有する医官・看護官等を育成し、自衛隊医療に貢献する

【初診予約についてお願い】

当院の精神科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせて頂いております。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。また暫くの間、膠原病内科と感染症呼吸器内科は診療体制的に初診予約を中止させて頂いておりご迷惑をおかけ致します。

* 高脂血症外来新設のお知らせ *

抗加齢血管内科は、約40年の長きに渡って高脂血症の専門治療を行ってきましたが、今回高脂血症外来を金曜日午前に新設しました。以下の患者様の専門的治療を行います。お気軽に御相談ください。

- ・ 家族性高コレステロール血症(疑い含む)
- ・ 薬剤抵抗性、あるいは副作用で薬物治療が困難
- ・ 著明な高中性脂肪血症、著明な低HDL血症
- ・ その他、診断や治療でお困りの症例

担当医：遠藤康弘が診察致します。

紹介状をご持参下さいますようお願い申し上げます。

地域医療連携センター（初診予約・病状照会等連絡先）内線 3043・3882 FAX04-2995-1130

医療連携の連絡先

地域医療連携センター

初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状紹介等

TEL：04-2995-1511 内線 3043・3882

患者支援センター

退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談等

TEL：04-2955-1511 内線 6123～6126